

陽気ぐらしの天理教
天理教布教の家石川寮



布教の家

立教185年度 入寮案内

喜びを実感しよう

ひながたを実践しよう



全国16カ所の布教の家。

寮生の年齢や立場はさまざまです。親からの信仰を受け継ぎ代を重ねた人もいれば、自ら信仰の道に入った初代の人もいます。

布教経験に関しては、ある程度慣れた人もいますが、ほとんど経験がない人も多くいます。これまで経験のない人も、布教の家での布教専従の1年間を通して、親神様のお働きを実感していくのです。布教の家は、むしろ布教経験のない人や布教に自信のない人にこそ入寮を志してもらいたい所なのです。「3ヶ月も歩けば、入寮前の自分がどれだけ頭でっかちだったか思い知らされる」と多くの寮生が話します。

雨の日も風の日も布教に明け暮れし、正面から親神様と向き合つてこそ、尊い喜びを味わうことができるのです。

心の精神の理によつて働く。精神一つの理によつて、一人万人に向かう。神は心に乗りて働く。心さえしつかりすれば、神が自由自在に心に乗りて働く程に。

(明治三十一年十月一日)

目 次

●ひながたを実践しよう 喜びを実感しよう	1
●布教の家寮生の声	3
●布教の家とは	5
●さあ！ 布教の家へ	
布教の家の一年間	
①「入寮研修会」でぢばの理を頂いて	7
②布教の家の一日	8
③布教経験豊かな 育成員の指導	9
④団参を通して さらなる感謝と自覚	10
⑤おぢばを目指し さらなる成人を	11
⑥布教の家を土台に 新たな布教活動へ	12
●布教の家寮生 生活規則	13
●全国の布教寮	14
●各寮の紹介	
北海道	15
青 森	16
東 京	17
埼 玉	18
千 葉	19
新 潟	20
愛 知	21
石 川	22
大 阪	23
和 歌 山	24
兵 庫	25
岡 山	26
広 島	27
徳 島	28
愛 媛	29
福 岡	30
●立教185年度 布教の家寮生 入寮要項	31
●布教の家 所在地一覧	33

布教の家

人のたすかりを考えて動く
その先に大きな楽しみがある

おたすけ先の方々に何とかたすかっていただきたい、
そのために私は何をすればいいかと、四六時中考える
ようになりました。人のたすかりを考えて動くことが、
ようぼくにとって一番大切で、そうして動き続ける先
に大きな楽しみがあるんだと、本気で思えるようにな
ってきました。人のたすかりのために自分の時間をお
供えさせていただく。心定め、日々の理づくり、その
積み重ねがどれだけ大切か。十年先、二十年先、もっ
とずっと先の自分の周りの状況を想像するうちに、今
自分がやるべきことが少しずつ分かってきたように思
います。まずは小さなことからコツコツと。先の楽し
みを想像しながら、喜んで今を通らせていただきます。

(埼玉寮 男性)



寮生の声

育成員の先生方から温かい声を 頂いて、気持ちが楽になった

新型コロナウイルスの影響により約二カ月ほど自粛期間があり、今月からようやく外へにをいがけに出られるようになりました。最初は歩ける喜びもあって毎日楽しく励んでいましたが、日に日に体しんどくなりはじめ、布教をしたいと心では張り切っていても体がついて来ず、外に出たくない感じてしまう時もありました。育成員の先生方に相談したところ、「しんどくとも、まずは寮の門から出なさい。それでも無理なら帰ってきてもいい」「しんどくとも、一軒でも二軒でもいいから回らせていただこう」と温かい声を掛けていただいて、気持ちが楽になりました。それからは自分なりのやり方を見つけて、毎日外に出てにをいがけに歩かせていただいている。これからもいろんな時期があると思いますが、どんな時も勇み心を忘れず、にをいがけの日々を楽しく通らせていただきたいと思います。

(愛媛寮 女性)



布教の家とは

決して練習所でも研修所でもありません。

ひたすらにをいがけ・おたすけを実践する場です。

●全国に16カ所の布教の家

布教の家は、布教を志す者が実際に
にをいがけ・おたすけに明け暮れる場
です。ただ歩くだけではなく、そこに
喜びの心を持てるよう、歩きながら自

らの信仰を見つめ直す場でもあります。

現在、布教の家は北海道から九州ま
で、全国に男子寮13カ所、女子寮3カ
所が設置されています。

●まず布教師がいて

布教の家の設立は、今からおよそ70
年ほど前にさかのぼります。

当時、戦後の厳しい生活難の中、お
道の布教師は野宿のような状況で布教
をしていました。そんな状況の下、教
区の好意により、単独布教師に教務支
庁舎の一部が提供され、布教師は定住

布教の家ができた

地をご守護いただくまでそこを拠点と
して布教に歩いたのです。それが布教
の家の始まりです。

つまり、布教の家を設立してから布
教師を育てたのではなく、まず布教師
がいて、布教の家ができたのです。

●まさに布教実践の場

このような成り立ちからも分かるよ
うに、布教の家は決して布教の練習所
や研修所ではありません。ひたすら、
にをいがけ・おたすけを実践する場で
す。育ててもらう所ではなく、自らが
布教師として育つ所なのです。

たすけ一条の歩みこそがようほくの

使命。教祖のひながたを万分の一でも
たどらせていただこう。その決意と情
熱を胸に1年間懸命に、にをいがけ・
おたすけに励む。それが布教の家です。
ただ、身構える必要はありません。教
祖のひながたは誰もが通ることのでき
る万人のひながたなのですから。

●経験豊かな指導者と良き仲間の中で

毎日の布教道中は、晴天の日ばかりではありません。そんなとき支えとなってくれるのが、寝食を共にする仲間です。また仲間は良きライバルでもあり、互いに切磋琢磨する砥石^{といし}でもあります。

また各寮には、寮長はじめ育成員（育成委員）がいます。教区管内の布教経験豊かな方々がその任に当たり、さま

ざまなアドバイスをしてくださいます。

各寮には、長年続いてきた寮のカラーがあります。もちろん地域的な特色もありますが、どの寮も、教祖のひながたを求めて素直に神恩感謝のにをいがけ・おたすけを実践するために、寮生たちと正面から向き合って取り組んでいます。

●生涯の宝として

布教の家での1年間は、それぞれの教会の御用や私事から離れて、完全に布教に没頭する毎日を送ります。だからこそ素直に真っすぐひながたを通る基盤がつくられ、生涯の布教生活の心を定める貴重な仕切りの1年となるの

です。この1年間に味わうさまざまな経験は、かけがえのない心の宝になるでしょう。

寮生の中には、卒寮後も現地に残り、布教を続ける人も少なくありません。

●思い切って布教に出よう

私たちようぼくは、定命を25年縮めて現身をお隠しになられてまで世界たすけをお急ぎ込みくだされた教祖の思召に、何としてもお応えしなければなりません。私たちが歩む道は、たすけ一条の道あるのみです。そのために教祖はひながたをお示しになり、道の先頭に立ってお導きくださっています。

しかしながら、頭では分かっていても、日常の生活に追われてなかなか思い切って布教に徹することができない自分自身がいませんか。

だからこそ、思い切って布教に出ましょう。この1年を仕切って、まずは布教の家に飛び込んでください。

さあ！ 布教の家へ

1

「入寮研修会」で ちばの理を頂いて

入寮が決定し、各布教の家へ出発する直前には「入寮研修会」が行われます。布教経験豊かな大先輩のお話を聞いて単独布教師としての基本的な心構えを学び、またこれから共に歩く仲間である寮生同士での話し合

「入寮面接会」では、各寮の寮長はじめ育成員が出席し、入寮希望者本人とその保護者に対する面接が行われます。「これら布教一筋に通るのだ」という意志の確認と入寮までの心づくりをするのです。

布教の家に入寮する前に、おちばで「入寮面接会」「入寮研修会」を受けます。

いを通して、あらためて布教に出発する決意を固めます。ちばの理を頂き、その理をしつかりと胸に治めた寮生は、決意も新たに、その足でそれぞれの布教地へと向かいます。



布教の家の一日は、朝の神殿掃除から始まります。朝づとめ前の早朝から起床し、全員で神殿や教務支庁の清掃ひのきしんをします。

朝食はパンのミミだけの日もあります。これが一日の活力源です。朝食を終え、定刻になると、にをいがけに出発です。ほとんどの寮生にとって、そこは見知らぬ土地です。しかし

地図を片手に戸別訪問に回るうちに、1週間もすれば、おぼろげながら地理もつかみ、1カ月もすれば、布教の方途が自然と身に付いてきます。

午後4時ごろ、足を棒にして帰寮。神殿掃除などひのきしんを終えると、当番の寮生が心を込めて腕をふるつた楽しい夕食です（昼食抜きで、朝夕は寮生の自炊）。

夕づとめ後、その日の出来事を仲間と共に語り合い励まし合って、明日への活力を養います。その他日の日課としては、全員そろってのお願いづとめや神名流し、駅前の清掃ひのきしんども行います。また、毎月定例日には、教区の担当の先生や布教の家OBと共に寮祭をつとめます。

昨年・一昨年は、新型コロナウイルスの影響により、にをいがけに出るのが難しい日もありましたが、それも無駄な時間ではありません。にをいがけに出られることのありがたさをあらためて実感し、教理勉強やひのきしんなど自分にできることには励むことが、自らの信仰を深めることや理づくりとなります。

2

布教の家の一日

さあ！ 布教の家へ

3 布教経験豊かな育成員の指導

入寮後、必死に戸別訪問に回つても断られてばかり。おさづけの取り次ぎはおろか、お話を聞いていただけない。そんな日が続くと、どうすればよいのか分からなくなり、次第に落ち込む日も出できます。そのようなとき、寮生の後押しをしてくださるのが、寮長はじめ育成員の先生方です。

布教の家では、その地で長年布教にいそしんだ経験豊かな方々が、寮長・育成員・本部派遣委員として寮生を常時指導してくださいます（本部派遣委員は一部の教区のみ）。寮生を叱咤激励し、時には寮生と共に歩き、身をもって布教師としての在り方を示してくださいます。

「初めの3ヶ月が大切。とにかく歩け。戸別訪問以外に道はない」との先生の言葉を受け、最初の3ヶ月、寮生はがむしゃらに歩き回ります。すると不思議にも、一軒、また一軒とお話を聞いてくださる所ができるのです。

このころになると、深夜の神殿で十二下りのお願いづとめをしたり、断食をしたりと、それで心定めや理づくりをする寮生も出できます。こうした動きが仲間同士の良い刺激となり、布教の家は、たすけ一条に邁進する布教師の拠点にふさわしい雰囲気へと変わり、まさにおたすけの現場となっていくのです。

毎年夏におぢばで開催される

のです。

「こどもおぢばがえり」には、おぢばで「寮各寮でも団参を計画して、おぢば帰りを目指します。日曜日などをを利用して、「にをいがけ子供会」や「おとまり会」を行い、準備を進めます。

団参を通してさらなる感謝と自覚

昨年・今年と新型コロナワイルスの影響で中止となりましたが、「こどもおぢばがえり」には多くの寮生がたくさんの帰参者をお連れて団参で帰ってきました。入寮間もない時期から心を定めて活動した成果を、目に見えるご守護として見せていただけます。

こうした団参は、生活の慣れからくる気の緩みや不安を吹き飛ばす、この上ない刺激となって、大きな喜びと感謝、やればできるのだという自信につながります。同時に、これが自分の使命なのだという自覚も出てくる

また9月には、おぢばで「寮生保護者会」が行われます。寮長はじめ育成員の先生方と寮生の保護者が、寮生の現状や、保護者の陰の理づくりの大切さについて話し合い、寮生のみならず保護者も共に苦労しようと誓います。



▶喜び勇んでおぢば帰り
(立教182年度)

■ さあ！ 布教の家へ

5

おぢばを目指し さらなる成人を

夏も終わりを告げるころ、いよいよ本格的なをいがけ・おさづけに入つてきます。とにかくおぢばへ帰つていただこうとお誘いに回る人、通い先へおさづけを取り次ぎに向かう人、それぞれが独自のをいがけスタイルを身に付けていきます。

寮生は原則として、入寮中の1年間は、別席者やおぢば帰りをしてくださる方をお与えいただかない限り、おぢば帰りはできません。大教会や所属教会への参拝、各種行事への参加も同様です。まさに布教一筋の日々です。それ故に、一人の方をお連れする苦労、それが成ったときの喜びを味わうのです。

おぢばに帰ってきた寮生は参報告のため布教一課を訪れます。その寮生の顔には、すがす

がしさの中にも布教師としての精悍さが表れ、入寮時との違いがはつきりと見てとれます。

寮生の活躍は、各寮から毎週「報告書」からも分かります。報告書には寮の現況やおさづけの取り次ぎ回数などが記されており、それは『布教の家週報録』として編集され、毎月、寮生・保護者・各寮担当者などに配布されます。

また、週間報告書と一緒に「おぢばへのお願い」も送られます。その用紙には、寮生がおたすけにかかっている人の名前や病名などが記入されています。これをもとに、布教一課長が各地の寮生に代わり、ぢば・かんろだいにお願い申し上げています。

6

布教の家を土台に 新たな布教活動へ

寮生に休みはありません。10月には「秋季大祭」、年明けには「お節会」。また各寮で期に応じて自主的に団参を組みます。そのほかにも「陽気ぐらし講座」などを独自で計画する寮もあります。心定めの人数達成に向か、常に目標を持って街中を東奔西走するのです。

そうしたにをいがけ・おたすけの中に身を置くうちに、長いと思われた1年も、あつという間に過ぎていきます。
3月の卒寮時には、布教の家の最後の行事として、おぢばに全寮生が集まって「卒寮の集い」が行われます。この集いにおいて、布教の家の尊い1年を土台として「新たな布教活動に邁進しよう」と、新たな門出を誓い合います。

実際に、卒寮後もそのまま単独布教師として現地に残る人が寮生に休みはありません。そのほか、自毎年必ずいます。そのほか、教会などを拠点として布教に歩く人も多数います。卒寮はゴルではありません。それそれが生涯一布教師としての新たな一步を踏み出すスタートなのです。布教の家での生活は、わずか1年間です。しかし、布教実践の中に身を置くその1年間で本当に多くのことを学びます。親の思い。日々頂く御守護。先人の苦労。自らのいんねん。この1年間で培ったことはお道を通っていく上で生涯の宝となるでしょう。

布教を志す人は、奮って布教の家へお越しください。またそのような人を、ぜひ送り出してください。教人であれば、年齢や性別は問いません。一人でも多くの方の入寮を心よりお待ちしております。

布教の家寮生 生活規則

寮生活は、常に教祖の道具衆たる自覚の上に、あらゆる苦労を乗り越えて、ようぼくの生命であり至上の使命であるにをいがけ・おたすけに勇んで励む毎日であらねばならない。

一、教区長および寮長の指示に従う。

一、布教の家の一日は朝づとめ（朝のお掃除）から始まる。定めの時刻には起床。

夕づとめも、おたすけ先の都合以外、必ずつとめる。

一、寮祭などを除き、毎日晴雨にかかわらず布教に尽くす。

一、服装は、布教師にふさわしく清潔で礼儀正しい姿を心がける。

一、朝づとめ前、夕づとめ後のひのきしんは、勇んでさせていただく。

一、おぢば帰りおよび上級教会や所属教会への参拝は、参拝者、別席者、修養科生を連れてのみ行えるものとする。原則としてそれ以外の事由では布教地を離れることなく、布教に専心する。

一、生活費は一人月六、○○○円とする。

一、食事は原則として朝夕の二回とし、自炊する。

一、毎週、所定の用紙により週間状況を布教一課へ報告する。

※右記の規則を守らない場合は、退寮を命ずることもある。

全国の布教寮

男子寮13カ所・女子寮3カ所





北海道寮

男子5名

SNSなどインターネットを活用したおたすけも新たに試みる

北海道布教は、あらきとうりょうの思いを胸に開拓者魂溢れる先人が、北海道の地で道なき道を切り開き、950カ所を超える教会を設立、百数十年代を重ねてまいりました。布教の家北海道寮は、昭和49年に男子寮として開設され、今年で47年目。これまで新しい道を切り開く布教師が多く育つてきました。

所在地は、北海道の人口の約半数200万人を抱える大都市・札幌市の中心部にある教務支庁内に置かれており、寮生はこの現代都市の中で鍛えられ、時には要請を受けて、地方の教会・支部の皆さんと泊まりがけで交流し、互いに刺激を与え合い、布教熱に拍車を掛け合っています。

平成8年には教務支庁が重厚な建物に建て替えられ、寮生も寒い冬の中でも暖かな部屋となり、浴室なども近代的な姿となり、教区長をはじめ、多くの先生方の親心を頂き生まれ変わりました。

寮生の一日は、朝の神殿掃除にはじまり、献饌、朝づとめ、朝食はパンの耳をかじり、お願ひごとめをつとめ、9時に神名流し、路傍講演、その後戸別訪問に出発します。そして夕方4時、にをいがけ・おたすけに歩き切った様子で帰寮します。

今年度から、現代のさまざまな状況を踏まえ、従来の布教体制に加えてSNSなどインターネットを活用したおたすけも試験的に取り入れて行こうと考えております。

北海道の四季は、春夏秋冬の区切りが明確で、どの季節にも教祖の逸話を想い起こすことができます。特に寒さ厳しい冬には、ご高齢で獄舎にご苦労くだされた教祖のひながたに思いを馳せる。この冬を越えたら、大きな財産を頂いたという実感が湧いてきます。一人で布教ができるという自覚、大きな自信に気が付くのです。あなたの入寮をお待ちしております。

青森寮

男子5名

本州最北端の地で 自分に挑戦



「青森は布教がしやすい。戸別訪問をしても、むげに断られることはめったにない」と、これはある卒寮者の言葉です。

要するに布教の家は教区の布教者が寄り集う拠点であり、人材育成の場として大いに機能を果たしています。

寮の運営は、寮長以下約20名の育成委員が、寮生へのお世話取りに当たります。中でも近年、地元出身の寮生が卒寮後引き続きO.B・育成委員として寮運営に携わり、寮生と共に布教に歩き、時には寮生のおたすけの助力となつて活躍するようになってきました。

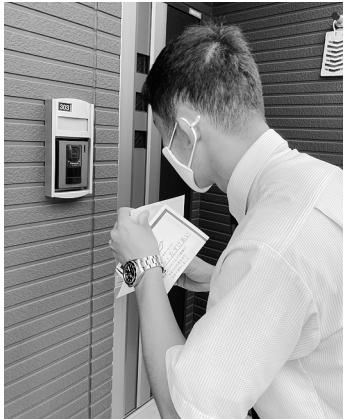
また毎月一度開催されている本部派遣委員の勉強会は、地域のようぼく信者の参加が年々増え、現在では20～30名の有志が集まり、布教・おたすけ熱を高める場へと発展してきています。

さらに各支部に置かれている運営委員が担当し、年に数回、泊りがけまたは日帰りの遠隔布

教も実施されます。県内いたるところに遠いおぢばの理を流す役割も、寮生に期待されているからです。

気力のある若者なら、気候風土のきびしい青森で自分に挑戦してください。そしてできれば、たとえ1人でも2人でも、おぢばにお誘いしてください。「ふるさとに帰りませんか」と、来る日も来る日も三十万市民に言葉を掛けてください。

そして1年過ぎたとき、ここ青森が第一の故郷になつていることに気づくでしょう。



東京寮

男子10名

日本の首都で 教祖のひながたを たどる

布教の家東京寮は、今年で開設68年目を迎えました。

本年も若さ溢れる寮生4名が入寮し、毎日教祖のお供をして、機を逃さぬにをいがけ・おたすけに歩いております。

東京寮では、「歩こう、汗をかこう、恥をかこう」をスローガンに掲げ、時や場所を選ばず、どんな中にもいのかけられる布教師を目指して歩いています。

また、布教地から帰寮した後も、夜の清掃ひのきしんやインターネットの活用など、戸別訪問に限らず、さまざまなアプローチを使つたにをいがけにも積極的に取り組んでいます。

毎朝つとめる神名流しは巣鴨駅の名物となつており、駅前では誰はかかることなく大声で「よろずよ八首」を唱和し、行き交う人々の魂に神名を刻み、勇み心を盛り上げてから、一日の布教活動をスタートさせます。

日本の首都東京はさまざまな地方の出身者のみならず、世界中の人々が集まるいわば国際都市の様相を呈しています。人口流入の多さに比例するように、人々の警戒心も強くなっていますが、その反面、希薄な人間関係から、心の絆を強く求めている方が何万と存在しているのです。

そうした中で、いかに人々の心の扉を開き、信頼関係を築いて、真実のをやの御心を伝えていくか。暗闇のよう心を悩める一人一人に対して、教祖の御教えという一條の光を照らしながら親身の寄り添っていく。それが我ら東京寮なのです。

新型コロナウイルスによる大節の最中、「たすべきの句」の風が吹き荒れている大都市東京で、誠実の「世界たすけ」を志すあらきとうりようは、さあ！ 来たれ東京寮に！

埼玉寮

男子8名

徹底した戸別訪問と
おさづけの取次ぎで
「炎天下一匹の蟻」
を目指す



埼玉寮の指導方針は、寮生としての1年間を単なる1年間の布教経験にすることではありません。卒寮後にそれぞれが単独布教に出られることを前提とし、国々所々どんな所にあっても、たった一人になつても教祖の「たすけ一條」の御旗を掲げ、コツコツとたゆみない戸別訪問を続けられる人材「炎天下一匹の蟻」を育成することになります。

そのため、甘え、妥協を徹底的に排し、日々の生活では、本来の布教の家設立の主旨「単独布教師」にできるだけ近づくことを求めています。

布教方針は、

一、「なぜ布教するのか」「いんねん」の自覚と「ようぼく」の使命について徹底的に練りあう。

二、自分の殻を破るがむしゃらな戸別訪問に重点を置く。

三、「にをいがけ」とは信心の証「おさづけ」の取り次ぎにある。

ということを徹底させることにあります。

そのために、練磨されたOBの育成員が月に数回、個別指導に当たり、「にをいがけではこうしておさづけをお取り次ぎするのだ」という布教の仕方を、身をもって伝授していきます。

そして、おさづけの取り次ぎの中から、自分がどれだけ教祖を信じているか、という信仰の真髓をつかむことをを目指し、ここ数年、数多くの別席者をお与えいただき、抜群のおさづけ取り次ぎ回数となっています。

こうした布教生活に明け暮れる中、砂漠のオアシスの清水にのどを潤すように、寮長から親心溢れるお仕込みを頂いて仕上げをしていきます。その結果、一人でにをいがけができるようになり、寮生活を終える頃には、現地に残つて、また各地で、自信を持って単独布教を志す者も毎年出てきています。

本物の布教師を目指すなら、埼玉寮で共に歩み、全教に布教の渦を巻き起こし、世界たすけの先兵たらんことを誓おうではありませんか。



千葉寮

女子8名

関東方面唯一の女子寮 「みちのだい」の心培う 育成体制

東京駅より電車で約40分、人口97万人を擁し平成4年に政令指定都市となつた千葉市。その市内、稲毛区の住宅街に千葉教務支庁があります。稲丘という地名に表されるように小高い丘の上にあり、昔は東京湾を一望できたようですが、今では海が埋め立てられ大きな団地に変貌しています。

こうした広大な布教地を眼下に持つ支庁の中に、昭和63年「管内の布教活性化の核となる布教の家を作りたい」との思いから千葉寮は開設されました。

以来歴代教区長、寮長をはじめ数多くの係員の真実ある細やかな指導により、たくさんのみ・ちのだいが卒寮しています。

寮生の一日は、朝の神殿掃除、朝づとめ、朝食、お願ひづとめ、神名流し、その後にをいがけに出発します。帰寮後、夕食、夕づとめ、夜の修練でしつかり一日を振り返ります。定めら

れている寮生心得を守り、日課表実施要項に従い、寮生活をしていただきます。

寮長並びに育成委員は隨時寮に出向し、寮生の生活全般、並びに布教に関する教化育成を目指し、布教の手助けをします。

教祖130年祭の神殿講話において真柱様は、人材の育成に長い目で取り組んでもらいたいといふことを仰せになりました。

建寮から30年が過ぎた現在は、目まぐるしく変遷する社会状況を踏まえ、女性布教師の安全も視野におき、長い目で考えたらどのような布教がこの女性布教師たちの財産になつてゆくのかを考え、運営しています。

みちのだいとしての資質を磨き、陽気ぐらしの台としてご恩報じの道をたどりたいという熱意ある布教師の来されることを心からお待ちしております。

新潟寮

男子6名

教祖のお伴をして
共に陽気ぐらしの道を
歩もう！
布教の家新潟寮へ



新潟市は産業や交通の拠点となる日本海最大の都市で、平成19年4月には政令指定都市となりました。現在は、経済・産業もますます発展し、プロのサッカー・バスケットボール、野球などスポーツの盛んな街で、芸術の豊かな街でもあります。また古くから仏教が盛んな街もあり、雪国特有の粘り強さを持ち、とても人情味豊かで話しかけやすい県民性もあります。

寮のある教務支庁はJR新潟駅より南へ徒歩10分の所にあり、毎朝駅前での神名流し・路傍講演が日課となつております。道中のゴミ拾いは新潟市から表彰されるほどこの街に根付いた大きなにをいがけの一つとなっています。

にをいがけから帰り、夜のミーティング後はそれぞれが「自ら考え、自ら動く。卒寮後も自分で歩ける布教師を目指す」という基本方針を基に、各自お願いごとめやおたすけ、ひのきしなどそれぞれのスタイルに合わせて活動をしており、また月に数度、寮のOBや育成員がね

新潟市は産業や交通の拠点となる日本海最大の都市で、平成19年4月には政令指定都市となりました。現在は、経済・産業もますます発展し、プロのサッカー・バスケットボール、野球などスポーツの盛んな街で、芸術の豊かな街でもあります。また古くから仏教が盛んな街もあり、雪国特有の粘り強さを持ち、とても人情味豊かで話しかけやすい県民性もあります。

寮のある教務支庁はJR新潟駅より南へ徒歩10分の所にあり、毎朝駅前での神名流し・路傍講演が日課となつております。道中のゴミ拾いは新潟市から表彰されるほどこの街に根付いた大きなにをいがけの一つとなっています。

にをいがけから帰り、夜のミーティング後はそれぞれが「自ら考え、自ら動く。卒寮後も自分で歩ける布教師を目指す」という基本方針を基に、各自お願いごとめやおたすけ、ひのきしなどそれぞれのスタイルに合わせて活動をしており、また月に数度、寮のOBや育成員がね

りあいや寝食を共にして支援・指導に当たってくださいます。

毎月各支部へ赴く移動布教では、普段と違う景色の中で布教を志す仲間と共にいがけに歩くことで、より一層布教意欲を駆り立てる新たな勇みの種となり、寮祭では教区管内の経験豊かな先生より布教講話を頂き、それぞれの寮生の心の成人を促してくださいます。

また教務支庁では、定期的に基礎講座が開催されており、未信者の方にも足を運んでいただきやすく、おぢばがえりにお誘いしやすい環境が整っております。

卒寮後もにをいがけに歩ける布教師へとなれるよう、またさまざまなおたすけを通して一人一人が心の成人ができ、少しでも親神様、教祖にお喜びいただける布教師になれるよう、寮長、育成員一同全力でサポートさせていただきます。

皆様の新潟寮への入寮をお待ちしております！



愛 知 寮

男子12名

初代の道を求めて 70年の伝統を持つ 布教の家

愛知寮が開設されたのは、16寮の中で最も早い昭和26年でした。70年の歴史を持ち、出身者は1千12名を数えます。

開設当初の寮舎は進駐軍が放出したまま原型のブリキ小屋でしたが、現在では、平成11年の創立百周年記念事業の一環として新築され、快適な寮です。

愛知県内には教勢の盛んな教会も多く、布教熱の高い土地柄も寮生の布教意欲を駆り立ててくれます。

現在の育成体制は、寮長、副寮長の指導のもと、育成員やOBによる定期的なねりあいを行ない、また共にいをいがけに歩くなど、こまめに寮生をバックアップしています。また、本部派遣委員による布教相談が毎月あり、教理勉強会などもあって、学ぶ機会にも恵まれています。

日課は、5時起床、神殿掃除、朝づとめ、町内ゴミ拾い、朝食、9時出発式、16時帰寮、夕食、タヅとめ、神名流し、ミーティングで一日の終わりとなります。神名流しは、毎日タヅとめ後に使う以外にも、月に一度、名古屋駅前や栄などの繁華街で路傍講演と共に行います。

寮の月次祭である寮祭では、教区内から布教経験豊かな講師による講話を頂いています。

さらに、多数の青年会、直属分会の布教実修の受け入れを始め、天理教校本科実践課程のを受け入れなど、寮生の勇みと励みになる行事が多いのも愛知寮の特色です。

初代の信仰を今に返し、いをいがけ・おたすけに専心するべく、伝統ある愛知寮で「生涯布教師！」の第一歩を踏み出してください。

入寮を心よりお待ちしています。

石川寮

男子6名

おたすけの実践を通して「心の成人」を目指す



石川寮の所在地金沢は、人口46万人を擁する北陸の中核都市です。古くは加賀百万石の城下町であり、戦災に遭わなかつたため、今もそのたたずまいを残しています。また、百万石文化を名残として陶芸、蒔絵、象眼、染色などの伝統工芸や謡曲、茶道が盛んです。

最近では、北陸新幹線が平成27年に開通し観光客が増え、古都のにぎわいをみせています。

寮生はこのような環境の中で、この1年間を最大限に生かすべく、日夜さまざまな取り組みをしております。早朝の神殿掃除から始まり、

神名流し、路傍講演、清掃ひのきん、そして日中の布教活動。夕づとめ後は各自のおたすけ活動、お願いづとめなど、教祖のひながたを万一分の一でもたどらせていただきことを第一として、毎日の布教活動や寮生活を通つてもらいます。そして、ぢばの理を受けて、その時々の旬の理に勇んで向かつていくことを目指していました。

寮生には、布教の苦労から見えてくる大きな喜びや感動と、おたすけを通して自らが磨かれ

ていく心の成人を感得してもらうべく、経験豊富な育成委員一同が真実を持つて寮生をサポートし、何よりも「寮生の心の成人」を目指した指導を徹底しております。また、本部派遣委員によるお仕込みを毎月行い、別に個人面談も月ごとに行うことによって、細やかな指導を目指しております。そして、育成委員、寮長、副寮長も長年おたすけに従事した先生ばかりで、単独布教から教會長になられた方や、ロシア、ウクライナ、メキシコといった地にて布教に当たられている先生もおられます。

この石川寮で、教祖のご苦労を思いながらひながたをたどり、地道にして真剣につとめる日々は、きっと生涯にわたるかけがえのない宝物となることでしょう。「入寮当時はまるで人が変わった」と多くの卒寮生が評価を受けるこの石川寮に、熱意溢れる皆様の入寮を期待すると共に、教祖のひながたをたどる中に、苦しみと、喜びと感動を、分かち合える日を楽しみにしております。



大阪寮

男子8名

生涯求道者たるの 信念の育成を目指して

嘉永6年、教祖の御命により、こかん様が初めて神名をお流しくだされたこの大阪の地。「道の玄関」とも仰せくだされ、親神様の深い思惑が込められた土地柄だといえましょう。

大阪寮は、立教152年（平成元年）4月、教務支庁内の旧「天理助産所」の建物を改装して創設されました。人間誕生の場所が、新しい布教師を生み出すところに生まれ変わったのです。

先人たちの輝かしい単独布教の足跡と、熱い思いが込められて開設されました。

その当時の大阪寮の建物も老朽化に伴い、平成12年4月、現在の新しい布教の家の寮舎1棟が落成しました。設備も充実しており、過去約30年間で300名を超える布教師を送り出しました。

おぢばに近いという大阪寮の地の利を活かし、にをいがけさせていただいた人々をおぢばにお連れする機会は数多く与えていただけます。大阪寮では、寮長1名、副寮長1名ほかに13名、全員で15名の育成委員が隔日交替で寮生の指導に当たっています。いつでも身近に、寮生からいろいろな相談に乗れる態勢を整えています。

また、教区布教専従者の勉強会参加や実践教理研究を行っています。

大阪寮は万全の受け入れ態勢で、皆様のお越しをお待ちしています。

研究をはじめ、だめの教えと他宗の比較研修、おてふり鳴物の指導など多彩なメニューを取り入れています。そして、単なる1年間の布教経験に終わることなく、生涯求道者たるの信念の育成を目指しつつ、育成委員・寮生全員が共に仲良く明るい家庭的な雰囲気でつとめております。

卒寮後の修理丹精、おぢばがえりなどにも最適の地の利を得た大阪寮です。多くの卒寮生が今日も続いて修理丹精し、また大阪の地で単独布教中の先輩たちも数多くいます。そんな先輩たちも頻繁に寮を訪れ、寮生を励ましてくれます。

さらに、ここ数年は専修科・布教伝道班の夏季布教実修や、TLIの神名流し・路傍講演や一日入寮の有志による布教実習の受け入れなど、布教を志す若人たちとの交流も盛んに行い、お互いに素晴らしい刺激を与え合う機会としております。

和歌山寮

男子6名

さあ
心定めた布教を通して
自分の心に
真実の道をつけよう



和歌山は、おぢばのある奈良県に隣接し、早くから道の布教が盛んに展開され、おぢば帰りもしやすく、現在では3カ所の大教会と約400カ所の分教会が教区管内に点在しています。また、県民のお道への認識は高く、地域に根付いていて、気候も温暖な土地柄です。

現在寮は、寮長と11名の育成員（男性9名、女性2名）によって、長い1年間の布教と寮生活の両面で寮生をサポートし、殊に育成員の多くは寮近辺の若い教会长やOBであり、同じ立場に立つて指導し、時に行動を共にしています。また、教区内の熱心な布教師の集まりである「わだちの会」に月2回参加し、布教やねりあいを通して刺激をもらって布教意欲を高めていきます。また、おつとめ衣の着付け講習や、希望者は和歌山雅楽会の練習にも参加することができ、1年間の練習を通して雅楽を習得して帰る

方もいます。さらに、これまでどんなに寮生の少ない時でも、人數の多い寮同様に、年間に何度もなく団参を実施できたのは土地の利便性によるところが大きく、布教初心者にとっては大きな励みとなっていました。卒寮した後も、にをいの掛かった方をそのままにしないことも卒寮後の大切な角目であることを思う時、何といつてもありがたいのは、おぢばから近く、修理や丹精に赴きやすいというこの利便性ではないかと思います。事実、卒寮後も現地を訪れるOBは数多くおり、中には教会設立を目指して布教に専念している者もおります。寮のカラーとしては自主性を重んじ、あくまで単独・布教に出る「布教師」の覚悟を持つて、また真剣に布教を通して「自分の心に道をつける」意思を持つて来られる方を、教区関係者一同心からお待ちしています。



兵庫寮

女子9名

団参とさまざまな 布教実修を通して 礎を築き 大きなご守護を頂く

兵庫教務支庁は国立公園・六甲連山のふもとにある、6千500坪の広大な敷地を有し、王子動物園、王子公園より北へ坂道を登りつめた所にあります。教務支庁の正門を入って左手に布教の家兵庫寮があり、南窓からは屋敷のお庭が、さらには神戸市内の風景が、ひとときわ美しく見渡すことができ、とりわけ一千万ドルの夜景は素晴らしい限りです。

兵庫寮は、教祖七十年祭前の昭和29年に開設され、同31年より女子寮として現在に至っています。以来、布教の家を巣立つた者の中から教会を設立して教會長になっている人や各地で活躍している教會長夫人が多くいます。

寮生は3月30日に入寮して以来、「御存命の教祖のお供」を含言葉に、ただただひたすらに歩きます。6月下旬にはおぢばがえり初夏団参、7月末～8月にかけての「こどもおぢばがえり団参」、その後、参加した子供たちを集めての

「おとまり会」などをします。また後半には、マイクロバスでの毎月の別席団参に取り組みます（コロナ禍の状況により変更あり）。寮生に対する毎月の丹精は教区長の講話をはじめ、寮長・育成員とのねりあいを適宜行い、また際立つて布教の活発な教会へ出向いての熱ある実修とねりあいで寮生の布教意欲は高まります。

さらには寮長と副寮長、11名の育成員による布教実修を状況に応じて実施し、きめ細やかな相談と育成に当たっております。

1年間兵庫寮で学び、神戸の街を布教する日々が、毎年大きな成果をお見せいただくこともさることながら、汗と涙を流してこの坂道を上り下りすることにより、それぞれが生涯の布教活動の礎を築かれることを確信させていただきます。

岡山寮

男子6名

夢と口マン溢れる 布教師に



岡山寮では、夢と口マンをもつて布教に取り組む人材育成を目指しています。自らが夢と口マンを布教の原動力としてきた寮長が、常に寮生の相談に応え、その時々の歩み方を示して寮生をサポートします。

当寮では入寮時、寮生同士でねりあい、1年間の初席者などの心定めを掲げてもらっています。その達成を目指し、時にはスタッフも加わってさらにはりあいを重ね、実動につなげていきます。前期今期と、新型コロナウイルスの影響を大きく受けましたが、その中でできる活動

をと、駅前での十二下りをつとめ、それがきっかけとなり、おぢばへ帰り、別席を運ぶ人ができました。また、寮独自で「こどもおぢばがえり」も実施しました。
何もないところから、さまざまな御守護をお見せいただく中で、たすけ一条の喜びを実感し、自ずと布教スタイルが確立されていき、これら自分がどのような布教を展開していくのか、夢と口マンが沸き起こってきます。

布教の道中には勇めない日もあるでしょう、時には理不尽なことも起こります。そこを寮生同士励まし合い、心を低くすることで突破していく。布教に欠かせない「勇気」と「根気」も培われていきます。

また、毎月の寮祭では、当番支部の応援を得て、お手をそろえてにぎやかに祭典をつとめ、布教講話を聞いて、意氣を高めます。

さらに教区で取り組んでいる、社会福祉施設でのひのきしななど、対外的な活動にも加わってもらっています。
にをいがけ・おたすけに、生涯かけてどこまでも夢と口マンを求めていく。これが、岡山寮のスピリットです。

道を楽しみ、夢と口マンに溢れる布教師に！

是非あなたも「晴れの国 岡山」へ！



広島寮

男子6名

平和都市広島で、 御教えを伝えよう

広島は、人類史上初めて核兵器の痛みを味わいました。

その後、「広島には75年間は草木も生えないだろう」と言われる中、戦後まもなく多くの布教師が立ち上がり、橋の下などをねぐらにしながら、ひたすら、おたすけと布教に歩かれました。そんな人たちに、「せめて夜露をしのげる場所を」との思いから、広島教区内の方々の志で寮舎が建ち、ここに布教の家広島寮が設立されました。そこにはまぎれもなく世界たすけを志す布教師たちがいたのです。

長年、広島寮には「まず歩こう」という合言葉があります。

先人の布教師たちは、「二日でも一人なりと救けねば、その日は越せぬ。」と仰せくださる教祖の思いを胸に、情熱を持って布教に歩かれました。

布教実践の場である布教の家では毎日何十軒と戸別訪問をしても断られてばかりで、思い悩むこともあります。そんな中、寮のスタッフたちは寮生の頑張りを見守りながら、寮生の声に耳を傾け、その思いを共有し、一つ一つの節と向き合いながら共に歩んでいきます。

また、一人でも多くの方を親里ぢばへお連れできるよう、寮生ともなりたいを重ね、団參を

組める体制を整えています。
広島には二つの世界遺産である嚴島神社と原爆ドームに日本国内のみならず海外からも大勢の方々が来られます。実際に海外の方に声を掛けたその方を教務支庁へお連れする寮生もあり、広島から世界へ御教えをお伝えすることもできます。

毎月の寮祭では、寮生が祭主と祭員をつとめ、当日、参拝に来られた方々と共に勇んじて、かに祭典をつとめます。また、祭典講話には教区管内の布教経験豊富な先生方をお迎えして、貴重なお話を聞かせていただきます。

コロナ禍の中にあっても、まずは毎日勇んで歩き、一人でも多くの人々に声を掛け、一軒でも多く訪問することによって神様にご縁を結んでいただき、それがおたすけへと繋がっていきます。

広島寮では、求道心を持つて単独布教の第一歩を踏み出し道の先達になることを志す方、さらにはいをいがけ未経験の方も共に御教えを学び、一からいをいがけのやり方を模索していくましょう。きっとそれぞれに合ったにをいがけ方法が見つかると思います。

徳島寮

男子5名

来たれ。
「道を」歩く男、
楽しむ男、喜ぶ男。

徳島寮は、まず戸別訪問に歩くことから始めます。訪問先の一軒一軒には本当にさまざまなお返答があります。その経験を重ね、にをいがけに慣れていく、自分に合った「にをいがけのスタイル」を、寮長たちと相談しながら練り合って徐々に作り上げていきます。また、月に一度寮祭を執り行い、そして季節に応じた団参企画します。そのおぢばがえりや寮祭に出会いを頂いた方々をお誘いし、喜んでいただけるよう心を尽くします。参加された方々が喜んでくだされた笑顔が、にをいがけの喜びと自信へと繋がります。



初心者にとって、にをいがけの実践にとても良い環境です。

徳島寮は、おぢばから車で2時間半の四国東、人口約26万人の徳島市にあり、市の中心に座する眉山のふもとにあります。南国らしい温暖な気候で一年を通して過ごしやすく、街の人々は四国八十八カ所巡礼者（お遍路さん）を労う「お接待」の文化を持つていてることもあってか、お道の布教者も広く受け入れられており、

本寮の指針は、「にをいがけ・おたすけの心」を基準に、「人様にたすかつていただこう」と、小さなことからでも行えるようになる

ことです。徳島寮の布教師として歩く毎日が、その心を作るのです。こうして通られた卒寮生方は現在、会社員や単独布教師、もちろん教会長など多種多様な立場の中で、この心をもつて自分らしく活躍されています。

徳島寮では他の誰でもない自分らしい布教師になることができます。ぜひ、徳島寮でこのおたすけの喜びという宝を得ていただき、あなたの人生をより味わい深い、うれしいものにしていただきたくご案内申し上げます。

徳島寮は、おぢばから車で2時間半の四国

ります。

そして歩く道中には、おさづけのお取次ぎやおぢばへお帰りくださる方に巡り合ったり、そのほかさまざまな不思議なご守護から親神様、



愛媛寮

女子6名

厳しさの中にも
家庭的な温かさ
一軒一軒の幸福を
祈って歩くにをいがけ

「春や昔十五万石の城下かな」。三千年の歴史を持つ日本三名湯の一つである道後温泉で知られた松山市は、人口50万人の観光都市です。市内には60カ所の教会があり、教務支庁は、道後温泉から徒歩で約10分の所、正岡子規記念館や道後公園へも徒步で7分ほどで行くことができ、緑と清流に恵まれた、のどかで人情味豊かな街の中にあります。

布教の家の寮生たちは毎朝この温泉街周辺で神名流しを実施し、日中は市内各地を戸別訪問に歩きます。

愛媛寮は昭和46年に女子寮として開設され、以来、約50年の間に150人の女性布教師が卒寮しました。愛媛寮で1年間培った信仰と布教力を基に、現在、全国各地で道の駅として活躍しています。

寮の育成体制は、教区長をはじめ布教の担当主事（寮長）と、育成員男性4人、女性2人で構成されています。

寮長はいつも寮生に「市内のご家庭の一軒一軒の幸福を、親神様に祈つて歩く心でにをいがけに回らせていただきなさい」と話します。

日々のにをいがけ・おたすけの実践と先生方の体験を通してお仕込みによって、信仰の向上と自立を目指しています。

家庭的な温かさと、明るく伸び伸びとしたスタイルが愛媛寮の特長です。

布教人生の第一歩を、夏目漱石の「坊っちゃん」ゆかりの四国松山の地で始めませんか。

福岡寮

男子6名

福岡寮名物・バス停 でのよろづよ八首 先人の熱き思いに 勇み立つ！



←寮祭の様子
(福岡教区ホームページ)

福岡寮は、昭和58年に開設された九州唯一の布教の家です。

福岡寮のある福岡市は、「アジアの玄関口」として発展を遂げ、国内人口の減少が進む中でも、今なお人が増え続ける、人口160万間近の政令指定都市です。海外誌が選ぶ「世界で最も住みやすい都市」でも常に上位にランキンギされる都市です。福岡寮の東西南北には住宅街が広がっており、にをいがけに歩きやすい土地でもあります。

福岡寮の取り組みは、教区長を先頭に、ぢばの思いに応え、布教の家担当主事（寮長・副寮長）他、布教の家を修了した先輩や日夜

布教に励む教区長を中心とした8名の育成員の計10名で、寮生をサポートする体制を整えています。さらには教区の方々が心を寄せてくれる方でも安心して歩けるよう心を配らせていただいております。また毎年4月には、戸別訪問先でのロールプレイも含めた「にをいがけドリル」を行い、布教経験のない方でも安心して歩けるよう心を配らせていただいております。

寮生の一日は、5時30分からの神殿掃除に始まり、その後、床舎内の清掃、朝づとめ。8時40分からお願ひづとめとおかきさげの拌読。そして、床舎前「黒門」バス停にて、よ

ろづよ八首のてをどり、元の理の拌讀、路傍講演を行います。晴れ晴れとした心に勇み立ち、それぞれの目的地に向かいます。他の寮と同じように昼食を抜き、帰寮後に神名流し、ごみ拾いのひのきしんに歩き、夕づとめに統じてその日の反省会を済ませて一日を締めくくります。

毎月の寮祭では、先輩寮生がにをいを掛けた人や、周辺支部の方々の応援で陽気に勇んでつとめます。おつとめ後、寮生代表の1カ月の体験に基づく感話と、寮長、副寮長はじめ育成員の講話があります。また毎月反省会を行い、1カ月の足跡を細かく振り返り、今後の進め方について相談させていただいています。寮祭の様子は、このページ上方に記載のQRコード（天理教福岡教区ホームページ）からご覧いただけます。

今これを読んでいるあなたのたすけを今から取れる布教師になろうではありませんか。

「御存命の教祖のお伴」を合言葉に、福岡の地を歩き回り、共に教祖御存命の真実を感じ取れる布教師になろうではありませんか。

親の思いを求めるあなたの入寮を、一同心からお待ちしています。

立教185年度 布教の家 入寮要項

●期
間

3月29日「入寮研修会」から、翌年3月末開催予定「卒寮の集い」まで

●資 格

①所属教会长ならびに直属教会长から推薦された天理教教人

▽出願時点で教人になつていなくとも出願はできますが、3月29日の「入寮研修会」までに教人登録

または登録の手続きが完了していない場合は、入寮できません。

②年齢は問わない。ただし、毎日布教に歩くことが可能であること

▽おぢばの修養科とは異なります。「布教の家へ入

つて身上のご守護を頂こう」というような理由での入寮はご遠慮ください。

③配偶者の有無は問わないが、単身での入寮に限り

注 1カ所の布教の家には、原則として1直属から1人とします。

●携 行 品

寝具、おつとめ衣、ハッピの帯（男子）、衣類、洗面具、筆記具、雨具、ほか各自が日常で使用しているもの

●貸 与 品

ハッピ（寮名入り）、名札

●諸 注 意

①寮費（生活費）は月6千円とし、自炊する。

寮費は、毎月26日までに、翌月分を保護者が布教一課に納入すること

▽4月分のみ、入寮研修会の受付にて本人に納めていただきます。

▽一括納入も可能です。

②寮生は1年間、にをいがけ・おたすけに専念し、帰参者・別席者・修養科生を連れてのおぢば帰りおよび上級教会・所属教会参拝以外は、原則として布教地を離れぬこと。教会の祭典・行事、私事についても原則として認めない

③中途入寮は認めない

●願書

- ①入寮願書 1通（所定用紙）
- ②経歴書 1通（所定用紙）
- ③健康調査票 1通（所定用紙）

- ④小論文「入寮の動機および心構え」

- ▽200字詰め原稿用紙4～5枚程度。市販の用紙も可。

- ⑤写真2枚

- ▽半年以内に撮影したもの（免許証用のサイズ）。

▽布教中に携帯する身分証に使用しますので、身だしなみを整えて撮影した写真を用意してください。

- ▽2枚のうち1枚は経歴書に貼付してください。

- ※願書は布教一課へ取りにお越しください。（11月

25日から配布） また布教の家がある教区（教務

支庁）でも配布しています。

- ※希望の寮は居住している教区の寮でも構いません。

●願書受付

1月25日午前9時から2月25日午後4時まで。布

教一課へご持参ください。

※郵送での提出はできません。

※各寮（教務支庁）では受付できません。

●入寮者決定

2月27日に面接のうえ決定し、3月中旬ごろに本人・保護者・所属教長へ通知します（面接は保護者同伴）。

※希望の寮が定員を超える場合は、原則として先着順とします。

●入寮研修会

入寮許可者に対し、3月29日～30日の2日間でおちばにて研修会を開催し、終了後そのまま布教地へ出発します（各寮までの旅費および4月分の寮費を、当日持参していただきます）。

◇詳細は左記へお問い合わせください。

天理教布教部 布教一課

おやさとやかた南右第二棟2階

TEL 0743-63-2243

布教の家所在地一覧

県名	定員	設置年	所在地	電話番号
北海道	5名(男子)	昭和49年	〒064-0808 札幌市中央区南八条西11丁目1番1号	011-561-1148
青森	5名(男子)	平成4年	〒038-0014 青森市西滝2丁目12番1号	017-781-0050
東京	10名(男子)	昭和28年	〒170-0003 豊島区駒込7丁目1番4号	03-3917-0247
埼玉	8名(男子)	昭和59年	〒331-0814 さいたま市北区東大成町1丁目654番地	048-663-0444
新潟	6名(男子)	昭和63年	〒950-0912 新潟市中央区南笹口1丁目3番4号	025-244-0418
愛知	12名(男子)	昭和26年	〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞3丁目15番18号	052-741-6363
石川	6名(男子)	昭和61年	〒920-0867 金沢市長土堀1丁目18番22号	076-222-0720
大阪	8名(男子)	平成元年	〒543-0036 大阪市天王寺区小宮町9番18号	06-6771-0012
和歌山	6名(男子)	平成6年	〒640-8137 和歌山市吹上3丁目2番46号	073-436-4445
岡山	6名(男子)	平成7年	〒700-0807 岡山市北区南方1丁目1番23号	086-222-5881
広島	6名(男子)	昭和28年	〒730-0004 広島市中区東白島町12番11号	082-221-1144
徳島	5名(男子)	昭和60年	〒770-0908 徳島市眉山町大滝山8番地	088-654-3877
福岡	6名(男子)	昭和58年	〒810-0062 福岡市中央区荒戸3丁目1番9号	092-741-3857
千葉	8名(女子)	昭和63年	〒263-0033 千葉市稲毛区稲丘町5番15号	043-241-3191
兵庫	9名(女子)	昭和29年	〒657-0804 神戸市灘区城の下通2丁目8番1号	078-861-3392
愛媛	6名(女子)	昭和46年	〒790-0852 松山市石手5丁目8番27号	089-921-7372

※布教の家はすべて教務支庁内に設置されています。



●編集・発行
布教部布教一課
TEL 0743-63-2243
●発行日
立教184年9月26日

►布教部ホームページ
<https://fukyo.tenrikyo.or.jp>

■ 願書配布

11月25日 開始

■ 願書受付

1月25日～2月25日

午前9時 午後4時